

「ネパール山上の灯台」プログラム通信 1

2017年1月18日

発行人：松井道男

配信人：鈴木克哉

2017年12月末日から2018年年始に本が刊行され「ネパール山上の灯台」プログラムが終了するまで定期的に配信する通信の第1号です。

話題 1：

ワークキャンプの詳細が決まりました。

Work camp: (ワークキャンプについて)

(1)場所:ネパール、カトマンズ郡 Sakhu 地区

カトマンズの中心地からバスで1時間半。2015年のネパール大地震で大きな被害を被った地域です(ボランティア活動ですので意図的に地震の被害のひどかった地位を選択しました)

注:ネパールは7つの州(province)、75の郡(district)から出来ている。

(2)実施場所:Sakhu1年生~11年生用学校

校長名: Lakash Shrestha 先生

(3) ボランティア活動内容

(a) 生徒たちの無料集団検診のお手伝い(会場設営、受付、医師のサポートなど)

ネパールの低年齢層の死亡率は高いです。無料集団検診による病気の早期発見が重要であるというナラヤン先生の発案で地元の医師の協力のもと、集団検診を行うことに決定しました。無料集団検診のお手伝いをする事でネパール地元の医師との交流を深めます。医学部志望の人たちの課外活動としては最高の活動です。また医学部志望でない人の場合には医療活動の現場からネパールの社会構造の矛盾を知る最適な機会になります。

(b) 学生との交流とグループ活動への参加

授業で日本の文化、学生生活などを話したりする機会があります。パワーポイントは使えないと思います。展示用の紙に書いていとか日本での事前準備はたいへんですが楽しいです。たくさんのお友達ができます。英語力も付きます。

(c) 学校活動や行事への参加

恐らく学校の校長先生を中心に歓迎してくれると思います。ネパールの教育システムと教育内容を知る絶好の機会に成ると思います。またスカイプなどでネパール人パートナーとネパールについて学ぶ時の基礎知識となります。

(d) ネパール人パートナーとの共同ボランティア活動

ネパール人パートナーはこのワークキャンプには全員が全期間参加します。パートナーとの活動を通して一緒に学ぶ最高の機会となります。

宿泊施設について

2015年の大地震で大きな被害を被った地域で民家はほとんど破壊されてしまいました。それでホームステイは無理とのこと。地元の人たちが1日だけでもホームステイを体験してもらおうと努力をしてくれています。それで宿泊はホテルなどの宿泊施設と成る予定です。

ネパール側の歓迎体制

私の経験からすると、Sakhuの教育関係者、医療関係者も歓迎する体制を組んで来ると思います。私たちも事前の準備をしていく必要があります。ネパール側の大人の人と対応しなくてはいけない場合がかなりあると思いますので、日本側から大人の方のワークキャンプへの参加があると本当は助かります。

話題2:

ネパール人パートナーのリーダーとファシリテーターが早くも決定

このプログラムの良さはネパール人パートナーとネパールや日本についてお互いに学ぶ合うということです。コミュニケーションは英語です。そして手段は最低週1回のスカイプと最低週1回のメールです。ネパールの社会構造や矛盾、医療問題などを学ぶことも主要テーマになるので同年輩より年上のネパールの方が良いという結論に達しました。それでパートナーはネパール人大学となりました。

同年輩のネパール人とはワークキャンプで必然的に沢山のお友達ができます。キャンパスではあなた方の後ろをネパールの学生さんたちがぞろぞろと歩いてついてくるはずですよ。

日本の学生とネパールの学生間のファシリテーター(進行調整役)は Abhishek Singh Basnet 君が引き受けてくれました。実はナラヤン先生の息子さんでトリブバン大学(日本では言えば東大と言ったところ)4年生で子供の時には日本にいました。もちろん流暢な日本語を話すはずですよ。近い将来、日本の大学院に留学したいという希望を持っているとのことですよ。

ネパール側のパートナーのグループリーダーが決定しました。開発学学士課程2年生 Prabat Thapa 君です。日本側も早く参加者が決まりグループリーダーを決める必要があります。